

「中国地域オープンデータラウンドテーブル 第1回会合」開催報告

中国情報通信懇談会は、令和5年10月25日（水）、中国総合通信局及び（一社）中国経済連合会との共催により、「中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル」の令和5年度第1回の会合として、「データ戦略セミナー」及び意見交換を開催しました※。

※ハイブリッド開催：WEB（Zoomウェビナー・ミーティング）・中国総合通信局会議室

当日は、（独）情報処理推進機構の平本デジタル基盤センター長にお越しいただき、中国地域の地方公共団体のほか、情報通信懇談会会員や中国経済連合会会員の民間企業等から参加された95名に対してご講演いただきました。

概要は次のとおりです。

【開会挨拶】中国情報通信懇談会 相原運営委員長

これまでの「中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル」の取組成果の一つとして、防災・減災に必要なオープンデータの議論は一定程度浸透した。本日は、昨年度までデジタル庁で、オープンデータの活動の中心メンバーとして活躍されていた平本デジタル基盤センター長にディープな話が聞かせてもらえることを期待している。データ利活用の現状を俯瞰し、国のデータ利活用の動向がどうなっているかを確認したい。本ラウンドテーブルの活動成果が有効に展開され、中国地域において官民のデータオープン化が進んでいくことを祈念している。



【セミナー】(独)情報処理推進機構 平本デジタル基盤センター長

「データが社会や組織を変える」と題し、世界のデータ戦略はどこに向かっているのか、デジタルの本質とその影響やどのような社会がくるのか、また、データの供給メカニズムから相互運用性とデータ主権の確保、地域における人材育成や体制構築等、オープンデータに限らず非常に注目されているデータの動きについて、幅広くご説明いただきました。



【意見交換】コーディネーター：(一社)データクレイドル 大島代表理事

「オープンデータの定義の世界共通・日本共通化」、「政府標準、推奨フォーマットの運用」のルール化、「自治体に対しては強制すべき」の意見に対し、平本デジタル基盤センター長が「デジタル庁、IPA等で政府標準・共通化等、一生懸命議論しているところ。地域がビジョンを持って先行することも一つのやり方。フランダース地方は国を引っ張っている。」と応じられた。

大島代表理事が「中国地域がフランダース地方になれるかもということを学んだ。国の戦略と大きく外れないよう情報をいただきながら地域のビジョンを共有し、中国地域で先行してできることを形にしていきたい」とまとめられた。



【閉会挨拶】(一社)中国経済連合会 清地常務理事

ラウンドテーブルの活動はまだ道半ばではあるが方向性は出ている。減災・防災以外の領域も含め、中央の動向を教えてくださいながら取り組んでいきたい。

